

戦評

大会名 県民共済カップ

第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会青森県代表決定戦

日時 令和4年10月29日～30日

会場 青森県武道館

男子決勝（10月30日）

弘前工業高等学校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 25-23 \\ 25-16 \\ 25-21 \end{array} \right\}$ 0 五所川原工業・工科高等学校

ファーストレフリース

新岡 勇士

セカンドレフリース

工藤 治

決勝は3年連続43回目の選手権大会出場を目指す弘前工業高等学校（以下弘工）と3年ぶり9回目の出場を目指す五所川原工業・工科高等学校（以下五工）との対戦である。第1セット序盤、弘工はエース鳴海を中止とした攻撃で加点、対する五工はクイックを中心とするコンビバレーで対抗、弘工が14-10としたところで五工1回目のタイムアウト。五工も中盤、宮本・三橋のスパイクで食らいつくが、終盤鳴海のダイレクトスパイクなどが決まり21-17で五工2回目のタイムアウト。その後弘工の高いブロックと鳴海のスパイクで加点するが、五工も粘り強いレシーブから反撃、24-22で弘工がタイムアウト。最後は弘工長内のクイックが決まり、第1セットは25-23で弘工が先取。第2セット、弘工は鳴海のサーブでリードを奪う。対する五工は三橋のスパイクで加点するが、弘工が10-6としたところで五工1回目のタイムアウト。その後はお互いに点数を取り合う展開が続くが、弘工は澤頭のスパイクで徐々に点差を広げ、最後は澤頭のブロックで25-16。第2セットも弘工が取る。第3セット序盤、五工は宮本のスパイクなどでリードし、弘工が1-4で1回目のタイムアウト。弘工は長内のブロックや澤頭のスパイクで逆転、11-9で五工1回目のタイムアウト。弘工澤頭、五工三橋の打ち合いが続き、終盤までシーソーゲームが繰り返される。弘工は小山内のスパイクとサーブが効果的に機能し、23-19で五工2回目のタイムアウト。五工は宮本のバックアタックなどで意地を見せるが、最後は弘工の高さのあるブロックが相手のミスを誘い、25-21で弘工が3セット目をとり、3年連続43回目の選手権出場を決めた。

戦評者 小山内 忍